

# 柏の自然 一過去・現在・未来

自然環境変動学分野: <http://changes.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/>

## こんな問題に取り組んでいます

都市の地盤は、主に過去約10万年間に堆積した比較的新しい地層で形成されています。地震や洪水、土砂災害から都市を守り、豊かな自然環境を維持していくために、都市の地盤や地形がどのようにして形成されてきたのか、また将来どのように変化していくのかを調べています。

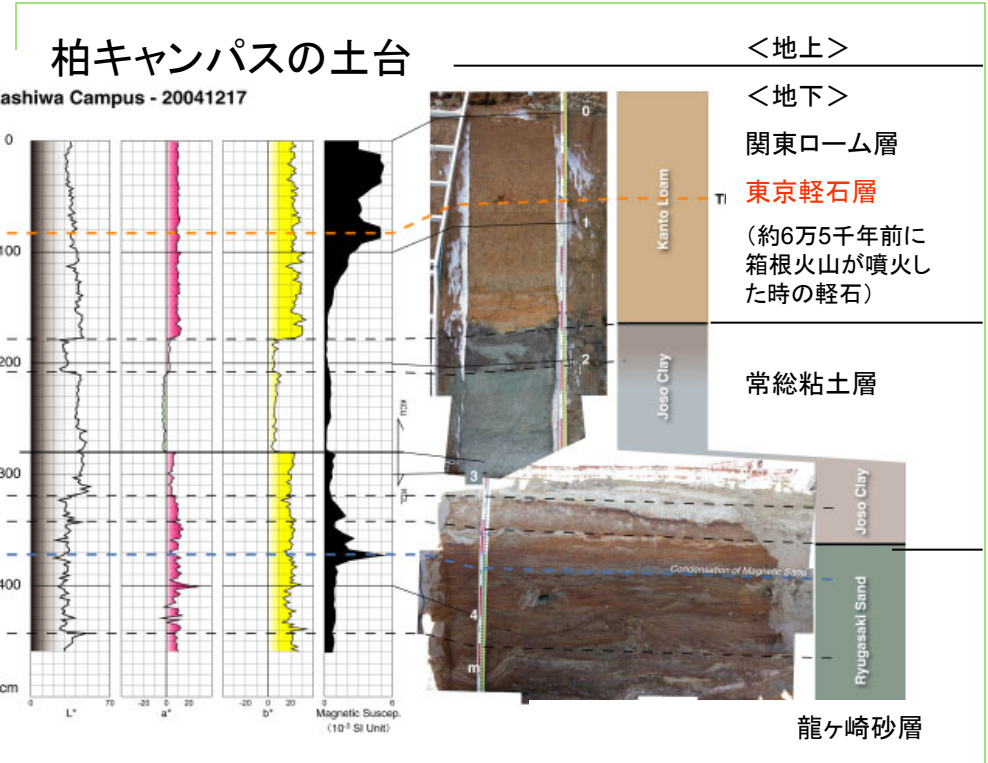
## こんな柏の自然史がわかってきました

柏キャンパスは、下総台地の北部に位置し、台地の東西には利根川と江戸川が流れています。両河川に沿う低地は、数千年前まで海底でした。下総台地北部は、10万年前頃に河床が干上がり、一帯が湿地となった後、火山灰層に覆われてきました。両河川沿いの土地の形成史や、東京軽石降下時の箱根火山の噴火の様子を解説します。

## 一般公開ではこんな展示を行います

- ① 柏キャンパス地下の地層剥ぎ取り試料(右の写真の実物)
- ② 三浦半島江奈湾の干潟の地下に堆積した津波堆積物試料
- ③ 深谷断層の近くで発見された3000年前頃の液状化跡の地層
- ④ 日本各地の空中写真 など

**関連展示:** 自然環境変動学分野の研究紹介  
**連絡先:** 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 自然環境学専攻  
 須貝 俊彦 <sugai@k.u-tokyo.ac.jp>



柏環境棟の工事で、深さ5~9mの穴が掘られました。河床の砂層→湿地の粘土層→台地を覆う火山灰層(関東ローム層)が順に堆積する様子が観察できます。地層の帯磁率や色、粒度、火山灰等を調べると、柏の自然環境がどのように変化してきたのを知ることができます。